

6-1 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 事業費 5億9,552万円

財源	国のお金		施策実現のための事業費	地区交流センター費	2億5,824万円
	県のお金			横手総合交流促進施設費	6,706万円
	市の借金	1,260万円		横手市交流センター費	7,373万円
	その他	2,623万円		地区会議運営支援事業	3,554万円
	市のお金	5億5,669万円		その他	1億6,095万円

市民が、主体的にまちづくりの主人公となって、さまざまな課題に対し、みんなで語り合い、助け合い、支え合うことによって、市民主体による特色あるまちづくりが進められていることを目指します

主な事業

- ◆地域おこし協力隊活用事業(秘書広報課分)(809万円)
地域おこし協力隊として、外からの目線で「地域の魅力」を各種SNS等を活用しながら発信しています。
- ◆地域おこし協力隊活用事業(横手の魅力営業課分)(880万円)
地域特産品の開発や6次産業化の推進に取り組んでいる市内団体に地域おこし協力隊の受入れを委託し、官民協働で地域力の維持と強化、地域活性化の進展を図ります。
- ◆地域おこし協力隊活用事業(観光おもてなし課分)(404万円)
外部からの目線を持った地域おこし協力隊員と(一社)横手市観光推進機構が連携し、観光資源の掘り起こしや旅行商品造成に向けた観光資源の磨き上げに取り組みます。
- ◆地区交流センター費(2億5,824万円)
市民の皆さんの自主的な地域活動と生涯学習を応援し、市民協働の総合的な地域づくり活動を展開していくため、令和5年度からは、市内全ての公民館を地区交流センターに名称変更し、各地域の特性を活かした地区交流センター事業を行います。



地域おこし協力隊の活動の様子

6-2 男女が尊重し合う社会づくり 事業費 166万円

財源	国のお金		施策実現のための事業費	ワークライフバランス推進事業	120万円
	県のお金			男女共同参画社会推進事業	46万円
	市の借金				
	その他				
	市のお金	166万円			

男女が互いを尊重しあいながら、家庭や職場、地域などの中で、一人ひとりが輝き、自分らしく生きられる社会が形成されていることを目指します

主な事業

- ◆男女共同参画社会推進事業(46万円)
男女共同参画行動計画を推進するほか、意識啓発のためのイベントや研修会、女性が活躍できる社会を構築するためのセミナー等を開催します。
- ◆ワークスタイル研修受講支援事業(120万円)
企業や団体の経営者・管理職と従業員それぞれに向けて働き方改革やワークライフバランスなどに関する講演会・研修会を実施します。

6-3 情報を共有する環境の整備

事業費 1億3,005万円

財源	国のお金		施策実現のための 事業費	コミュニティFM中継局運営費	671万円
	県のお金			行政情報発信事業	4,883万円
	市の借金			市政協力員事業	3,475万円
	その他	1,785万円		地域情報通信網管理運営費	3,259万円
	市のお金	1億1,220万円		その他	717万円

市民と行政との情報共有が図られ、市政への関心が高まっていることを目指します

主な事業

◆広報誌発行事業(3,917万円)

◆コミュニティFM活用行政情報発信事業(966万円)

生活に役立つ情報を詰め込んだ広報紙「市報よこて」を市内の全世帯に、毎月1回お届けしています。また、1日3回朝昼晩、毎日、横手かまくらFMにて「よこてタウンメッセージ」を放送しています。



6-4 市内外との交流連携の推進

事業費 3億559万円

財源	国のお金		施策実現のための 事業費	ふるさと納税PR事業	2億7,749万円
	県のお金	690万円		ふるさと会支援事業	741万円
	市の借金			移住定住促進事業	1,164万円
	その他			奨学金返還支援事業	507万円
	市のお金	2億9,869万円		その他	398万円

市民が自分の住むまちに誇りを持ち、市の内外で活発に交流・連携の取り組みが行われることによって、地域に賑わいや活気が生み出されていることを目指します

主な事業

◆移住定住促進事業(1,164万円)

移住検討者への情報発信を行うとともに、オンラインと対面両方の相談体制を整備することにより、移住への不安を払拭し、後悔のない移住につなげるほか、移住支援金の支給により移住に伴う負担の軽減を図ります。

◆ふるさと納税PR事業(2億7,749万円)

ふるさと納税制度を通じて、地域の事業者育成や産業の活性化、横手市の知名度向上、横手ファンの拡大につなげます。

◆奨学金返還支援事業(507万円)

修学意欲のある学生の奨学金返還に対する経済的不安の低減と、地元への定住や次世代を担う人材確保を推進するため、奨学金返還額の一部を支援します。



7-1 市民ニーズに対応した成果重視の行政運営の推進 事業費 13億8,768万円

財源	国のお金	4,239万円	施策実現のための事業費	情報システム運用管理費	2億1,908万円
	県のお金	4,065万円		議員人件費	1億9,521万円
	市の借金	200万円		ネットワーク管理費	2億4,537万円
	その他	5,884万円		公用車管理費	8,877万円
	市のお金	12億4,380万円		その他	6億3,925万円

行政評価制度の活用や行政改革の推進などにより、P D C Aサイクルに基づいた成果志向の施策や事業が計画、執行され、最少の経費で最大の効果を上げられる、市民満足度の高い行政運営が行われていることを目指します

主な事業

- ◆ICT活用サービス推進事業(400万円)
窓口に行くことなく、ご自宅などから「いつでも」「どこでも」手続きができるよう、行政手続のオンライン化を推進します。
- ◆個人番号カード等交付事務費(4,270万円)
マイナンバーに関する情報の提供に努め、マイナンバーカードの普及を促進します。各地域局窓口対応の強化や個別訪問での申請・交付等を行います。

7-2 財源確保と効率的・効果的な財政運営の推進 事業費 114億5,781万円

財源	国のお金	7億5,500万円	施策実現のための事業費	公債償還元金	67億9,116万円
	県のお金	2,044万円		財産経営推進計画実施事業	7億2,788万円
	市の借金	26億 110万円		大型公共施設整備事業	30億8,476万円
	その他	1億8,179万円		ふるさと応援基金積立金	2億4,260万円
	市のお金	78億9,371万円		その他	6億1,141万円

限られた経営資源(ヒト(人材)・モノ(施設等)・カネ(財源))を効果的、有効的に活用する継続的に安定した行財政運営が図られていることを目指します

主な事業

- ◆大型公共施設整備準備事業(563万円)
- ◆大型公共施設整備事業(横手体育館)(19億3,674万円)
- ◆大型公共施設整備事業(横手市民会館)(11億4,238万円)
老朽化が進む横手体育館及び横手市民会館の移転、建て替えの工事に着手するとともに、令和8年度春のオープンに向けて、より具体的な運営計画案を作成します。
- ◆財産経営推進計画実施事業(7億2,788万円)

人口や財源の減少に対応し、公共施設を適正な規模や機能に再配置することを目的に策定した「横手市財産経営推進計画(FM計画)」に基づき、施設の解体工事を行うほか、次年度以降の解体工事に向けて設計業務を行います。また、小学校統合に伴い廃校となった旧十文字第二小学校を改修し、三重公民館、十文字卓球場、廃止済みの旧十文字体育館の機能を統合するほか、十文字西地区交流センターに設置されている健康の駅南部トレーニングセンター機能を移転することにより、様々な人が集う多目的施設としてリニューアルします。なお、改修後の施設の一部を、よこて市商工会本所と十文字町建設連組合事務所も使用する方向で協議が行われています。改修工事は令和5年度に着手し、令和6年秋頃の供用開始を予定しています。



7-3 戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実 事業費 77億1,477万円

財源	国のお金	1,370万円	施策実現のための 事業費	人件費	76億2,290万円
	県のお金	1億3,911万円		特別職人件費(三役等)	4,817万円
	市の借金			職員研修及び厚生費	3,054万円
	その他	2,756万円		特別職人件費(教育長)	1,239万円
	市のお金	75億3,440万円		その他	77万円

職員一人ひとりが、市民(お客様)の立場で考え、柔軟な発想や創意工夫、実践力向上を図り、市民ニーズに対応していることを目指します

主な事業

- ◆職員研修費(333万円)
職員一人ひとりの知識や能力を向上させ、行政運営に寄与するよう職員研修を実施します。
- ◆厚生費(2,721万円)
職員が心身ともに健康で職務に精励するとともに、家庭生活との両立が実現できるよう、職場健診やストレスチェックを行います。



気になる財源「市債」って何？

Q1 「市債」は毎年予算に上がっているけど、毎年借金をしているってこと？

A1 その通りです。

建物や道路など、皆さんで使う施設の整備に使われる財源として、毎年お金を借りています。

Q2 借金しなくても、貯金を貯めてから施設を整備すればいいのでは？

A2 その方法でも施設は整備できます。が、時間がかかります……。

例えば100億円の建物を整備するために、毎年1億円ずつ貯金をしても、事業が始まるまで100年かかります。それでは今税金を納めていただいている皆さんは利用することができず、不公平となります。

市では、長く利用される施設を整備するときには、必要な財源の一部を借金でまかない、施設を利用する各世代の皆さんからいただく税金で返済することで、負担を公平にしています。

また、借金だけでなく国や県からの補助金など、他の有利な財源も活用できるように工夫しています。

【参考】市債(借金)と基金(貯金)の残高

- ◆横手市の一般会計の令和5年度末の市債残高(見込み)は、約657億9,466万円です。
横手市民ひとり当たりに換算すると、約78万4千円になります。
- ◆横手市の令和5年度末の財政調整基金と減債基金の残高(見込み)は、約106億2,676万円です。
横手市民ひとり当たりに換算すると、約12万7千円になります。

02 ピックアップ

新しい横手体育館と横手市民会館の 建設工事に着手します

令和7年度末までの建て替えを目指して検討を進めている、横手体育館と横手市民会館の移転・建て替えにかかる建設工事に、いよいよ着手します。

令和3年3月策定の基本構想、令和4年3月策定の基本計画に基づき、令和4年12月に基本設計が完成し、現在は詳細な設計(実施設計)の業務を進めています。

■ 横手体育館

【基本設計の概要】

建設場所 赤坂総合公園内(現在の第3駐車場/第3雪捨て場)
延床面積 13,649㎡(うち屋内 12,293㎡)
階数/高さ 地上2階/高さ23.8m

○第1アリーナ(大きさ65m×40m/天井高17.9m)

- 種目ごとに利用可能な設備の例
バスケットボール3面、バレーボール3面、バドミントン12面、ハンドボール1面、フットサル1面、卓球18台以上、マーチング
- 2階に2,000席以上の観客席
- ランニングコース(1周270m)

○第2アリーナ(大きさ25m×40m/天井高12.5m)

- 種目ごとに利用可能な設備の例
バスケットボール1面、バレーボール1面、バドミントン4面、卓球6台以上
- 2階に約250席の観客席

○その他

- 多目的室(スタジオ)
- コンディショニングルーム(トレーニングスペース)
- 会議室(大会本部室、審判控室等に利用)、放送室
- キッズコーナー、屋外のスポーツパークなど



正面からの外観イメージ

■ 横手市民会館

【基本設計の概要】

建設場所 条里(現在の横手体育館の南側付近)
延床面積 7,520㎡(うち屋内 6,600㎡)
階数/高さ 地上4階/高さ31.6m

○交流ホール

- 観客席数約1,300席
- 十分な大きさの舞台を確保
- 車椅子利用者対応観客席
- 親子室(2室)

○多目的室(リハーサル室)

小ホールとしても機能し、内外の一体利用も可能

○その他

- 会議室、練習室
- エントランスホール、ホワイエ
- ティーンズコーナー
- キッズスペース・授乳室
- 楽屋(5室)
- 屋外広場



正面からの外観イメージ

市ホームページで、基本設計のより詳しい内容をご覧ください。

横手体育館 基本設計

もしくは

横手市民会館 基本設計

で

検索



特集！体育館＆市民会館整備事業 ～お金にまつわるエトセトラ～

◆施設整備にかかるお金は約198.7億円

横手体育館整備にかかる事業費は約110.3億円、横手市民会館整備にかかる事業費は約88.4億円のお金がかかる見込みです。なお、このページ内の金額は、億円単位にするために小数点第二位で四捨五入しています。

★各年度の事業費見込

	R4	R5	R6	R7
体育館	4.3	19.4	30.8	55.8
市民会館	2.0	11.4	22.7	47.3
合計	6.3	30.8	53.5	103.1
主な内容	設計		工事	

祝 施設完成!



単位：億円

	R8	R9	合計
			110.3
	2.5	2.5	88.4
	2.5	2.5	198.7
駐車場整備			事業完了

※令和8～9年度は、現在の体育館を解体し、跡地に新しい市民会館の駐車場を整備する計画です。

◆さまざまな財源を活用します

施設の整備にはたくさんのお金がかかりますが、国の補助金・交付金、その他団体からの補助金、有利な条件で借りられる借金を活用することにより、できるだけ市の負担を抑える工夫をしています。

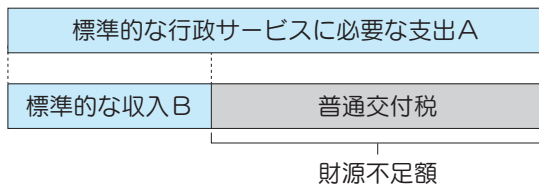
財源	体育館	市民会館	合計
国のお金	38.2億円	10.5億円	48.7億円
市の借金	66.4億円	71.6億円	138.0億円
その他補助金	0.7億円	0円	0.7億円
市のお金	5.0億円	6.3億円	11.3億円
合計	110.3億円	88.4億円	198.7億円



◆借が多いと市の財政は苦しくなる？

財源として見込んでいる市の借金の返済額の一部は、国からもらえる「地方交付税」のうちの「普通交付税」の計算に加算されます。体育館と市民会館の整備に活用する借金は、普通交付税への加算割合が大きい有利な条件となっており、借金返済が市にとって過度な負担とならないような仕組みを活用しています。

★普通交付税のイメージ



国により計算されたAとBの差である財源不足額を埋めるのが普通交付税です。
体育館と市民会館整備に活用する借金の返済額の50～70%相当がAに加算されます。

この事業で借りる約138億円は複数年かけて返済していくこととなりますが、普通交付税として後年度に入ってくる分を見込むと、市の実質的な負担は事業全体で約60.4億円になる見込みです。

事業期間内に必要な市のお金 ①	借金の返済額 ②	返済額のうち普通交付税で計算される額 ③	実質的に市が負担するお金 ④(①+②-③)
約11.3億円	約138.0億円	約88.9億円	約60.4億円



～市民の皆さんに長く愛される施設となるよう、引き続き準備を進めてまいります～

みんなでつくろう！ わたしたちの横手市

横手市公式 LINE スタンプ絶賛販売中！

第1弾

横手市「てくてくん」スタンプ



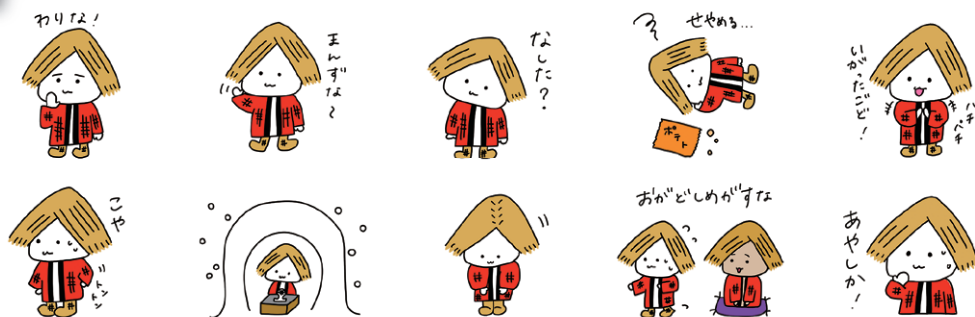
第2弾

横手市の魅力スタンプ



第3弾

よこてんの横手弁スタンプ



購入はこちらから→



横手 LINE スタンプ

検索